

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立駛馬南小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒836-0091

福岡県大牟田市沖田町 236 番地 1

E-mail hayameminami-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website

児童生徒数 男子 77 名 女子 74 名 合計 151 名

児童・生徒の年齢 7 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、地域の人とのつながりを大切に、地域の方々の支援を受けながら、今の自分にできることを実践しようとする持続可能な社会の担い手を育成することを目標とした。

◇各学年の主な活動内容

○1 年「ひとつぶのたねから」 2 年「おいしい野菜を育てよう」 4 月～11 月

・地域の方を G T に招き、野菜の植え方や育て方などについて教えていただきながら、『野菜の種まき・苗植え～世話～収穫～食べる』までの体験活動を行った。

○3 年「駛馬南探検隊」「エンジョイ！日本の伝統」

・主に福祉施設、公民館など地域の施設に贈ることをめあてに、社会福祉協議会や公民館関係者の方々の支援を受けながら、心を込めてミニ門松を作る。
・作ったミニ門松を、社会福祉協議会や公民館関係者の方々と一緒に、地域の施設に届けた。

○3年「駿馬南探検隊～花いっぱい運動～」 4月～7月

- ・地域の施設へ贈ることをめあてに、心を込めて育てた花を各施設に届ける。
- ・社会福祉協議会や公民館関係者等の支援を受けながら、花苗（マリーゴールド、ペチュニア等）をプランターに植えた。
- ・水かけなど、世話をして育てた。
- ・社会福祉協議会や公民館関係者等の支援を受けながら、地域の施設（福祉施設、公民館、病院等）に、プランターを届けた。

○4年「われら諏訪川探検隊」

- ・諏訪川の上流、中流、下流を見学することで自分たちの住む地域を流れる諏訪川について調査を行い、地域の自然や歴史についての課題をつかんだ。
- ・課題別グループに分かれて、諏訪川について詳しく調べる計画を立てた。
- ・諏訪川の自然を守るために活動されている地域の方に話を聞いた。
- ・カヌー体験を通して、川の様子を体感した。
- ・調べたことをまとめ、学習発表会で発信した。

○4, 5年「一人暮らし高齢者訪問」（4月～9月）

- ・大牟田市や校区の高齢化の実態を知り、校区の一人暮らしの高齢者の方に対して、自分たちにできることは何かを考えた。
- ・校区の一人暮らし高齢者の方に届けるプレゼントと手紙を準備するとともに、訪問の計画を立てた。
- ・公民館関係者や民生委員、PTA地域委員の方々の支援を受けながら、一人暮らし高齢者の方の家を訪問し、交流した。
- ・訪問した体験をもとに、さらに自分たちにできることを考え、実行した。

○6年「認知症について知ろう」9月～12月

- ・高齢者の増加に伴う認知症の現状や校区の先進的な「見守り声かけ模擬訓練」に関心を持ち、調べた。
- ・大牟田市認知症ケア研修会の方々をGTに招き、認知症紙芝居やグループ討議を体験し、認知症の高齢者の方とのさまざまなケースでの接し方について考えた。
- ・GTからのアドバイスをもとに、さまざまなケースでの高齢者の方との接し方について考えたことを模造紙にまとめ、それをもとに考えを交流した。
- ・「認知症になっても住みよい町づくり」のために、自分たちにできることは何か考え、どのように表現・実践していくか話し合った。



3年 花いっぱい運動



4年 諏訪川探検隊



5年一人暮らし高齢者訪問



6年 認知症学習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材

書籍 ・副読本 わたしたちの大牟田 ・「いつだって心は 生きている」など ウェブサイト ・石炭科学資料館 HP ・大牟田の近代産業文化遺産 HP など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

低学年では生活科，中高学年は総合的な学習を中心に，ユネスコスクールとしてESDの推進をめざし，持続発展可能な社会の担い手として生きていくために，SDGsに基づいた課題をふまえ，地域の財産（ひと・もの・こと）とのつながりを大切にした単元計画の工夫を行う。

また、ESD（伝統文化・福祉や環境）の視点で取り組む総合的な学習の時間（低学年は生活科）で，道徳の「おもいやり・親切」と関連させたり，表現・技能などの面での関連として，国語科の「話すこと・聞くこと」，算数科の表やグラフのかき方などとの関連を図ったりする。さらに学んだことの発表の場として学校行事の学習発表会を活用する。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。

※チェック事項 1-4 に対応

学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境づくりの中核となるのが各学年毎に作成しているESDカレンダーである。

また、地域教育力の効果的な活用（公民館・社協連・民生委員さん方から）やメディアセンターとしての図書室、パソコン室の活用することで環境作りを行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価

- ・ 指導と評価の一体化の充実
- ・ 学期末、学年末における指導計画の評価の充実
- ・ ポートフォリオを活用した評価

外部評価

- ・ 学校関係者評価
- ・ 保護者アンケート

成果

- 情報収集・分析能力の向上
- コミュニケーション能力の高まり
- 社会に参画する態度や能力の向上

課題

- 客観的な評価の在り方

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信方法・内容

- ・自分の思いや願いを、川の環境の保全や認知症への対応についてポスターやパンフレットなどに表す。
- ・地域の施設へ贈ることをめあてに、心を込めて育てた花を各施設に届ける。
- ・学習発表会で地域の人や保護者に発信する。

効果

- ・発信の方法や内容が明らかになっているので、それに向けての調べ活動や発信に向けての資料作成に意欲的に取り組む児童の姿がみられた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など) ※チェック事項 2-3 に対応

- 世界遺産学習については、宮原坑がある駛馬北小学校と交流しながら進めている。
- 中谷医工計測技術振興財団の科学教育振興助成を受けて、駛馬北小学校、中友小学校、吉野小学校と連携して学習を進めた。
- 地域コミュニティとしては、駛馬地区公民館等と連携して、福祉学習を進めた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成 ※チェック事項 2-4 に対応

- 同じ市内のユネスコスクールである駛馬北小学校と交流しながら学習を進めた。活動内容としては、5年生の世界遺産学習、3年生の花いっぱい運動などである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

○4, 5年「一人暮らし高齢者訪問」の学習は、公民館関係者や民生委員、PTA地域委員の方々の支援を受けながら行っている。大牟田市や校区の高齢化の実態を知り、校区の一人暮らしの高齢者の方に対して、自分たちにできることは何かを考え、校区の一人暮らし高齢者の方に届けるプレゼントと手紙を準備し、訪問した。この一人暮らし高齢者の訪問の学習を通して、地域への愛着が高まり、校区の認知症対応訓練に、ボランティアで参加する6年生が多数見られた。

(3) 平成30年度の活動計画

活動の計画

- 1年「ひとつぶのたねから」
- 2年「おいしい野菜を育てよう」
- 3年「発見私の町の宝物」「校区自慢カルタをつくろう」
「みんなが笑顔でくらせる町をつくろう」
- 4年「クリーンアップ諏訪川」「お年寄りの方の知恵を学ぼう」「世界遺産学習」
- 5年「私たちの世界遺産」「独居老人訪問」「伝統を引き継ごう」
- 6年「広めよう 大牟田のよさを」「平和について学ぼう」「未来に向かって」